



雪

玉

集

一二三

歌

歌

伊地知文庫  
文庫20  
280  
1



雪玉集

一二三歌

歌

伊地和文庫  
文庫20  
280  
1

雪玉集  
五册

六首  
280

皇玉集卷第一

伊地知氏書冊

春

年同立春

春の光に露れ衣さし 夕らふ二ひらふさつと

歳暮立春

御色なり年乃日敷ふはれの色を書かば美れなるをいん

元日

ありけりる雪さしうらら 春の光に露れ衣さし

春の小あひさしに 玉梅も可成のまらうらら 春の光に

元日

春の光に露れ衣さし 夕らふ二ひらふさつと

永正三の御月次

皇玉集 冊五



元日陪栢本影前志

あけのぼりまはるさしむるそのころはつゆあけのぼりまはるさしむる

試業

いさよふさふさのころはつゆあけのぼりまはるさしむる  
花鳥をよあひひきしむるころはつゆあけのぼりまはる  
のころはつゆあけのぼりまはるさしむる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

立春

あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

道長

あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

曉

あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

風

あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

三

あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる  
あけのぼりまはるさしむるころはつゆあけのぼりまはる

都鄙之志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

早志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

早志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

早志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

早志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

早志

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

あやうらひく墨りてま露花乃をこよひりそん

浦甲書

清あゝ雪を氷とてくろくろのやんばのやちのくろくろの

初書

あつらつそのま原おほしき日のまいたる風をわ  
くろくろのやんばのやちのくろくろのやちのくろくろの

初書

其東春日神はあつらつそのま原おほしき日のまいたる風をわ

初書

あつらつそのま原おほしき日のまいたる風をわ

子曰

少子六十四次  
うらやまの松のむねをふくむまのあはれにひきまの松のひきまを  
みよよ消えりきりか小松原子曰くあはれを消えりきり  
松のくろくろの松のくろくろの松のくろくろの松のくろくろの

子曰松

千五百三  
松のひきまの松のひきまの松のひきまの松のひきまの松のひきまの

初書

あつらつそのま原おほしき日のまいたる風をわ  
くろくろのやんばのやちのくろくろのやちのくろくろの  
形五五十四次  
あつらつそのま原おほしき日のまいたる風をわ  
くろくろのやんばのやちのくろくろのやちのくろくろの



こゝろをいふは子守の世に井邊は秋のうひ遊うゝむらん  
閑居

うらたまの家の元へ不始のそわふじとひのひをいふ  
あまの系まのいふるをうらたまは若年の世にうらたま  
まをていふ家の元へ不始のそわふじとひのひをいふ  
その家の元へ不始のそわふじとひのひをいふ

はくしやとてお井の代とてく秋のうひ遊うゝむらん  
閑居

久居三十二日月次  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ  
まよわのあはれは松の木の枝をいふは松の木の枝をいふ

閑居





浦島

永享二年四月  
春はさかきさかき此物もあはれしとて思はれしは

鹿保の文

永享二年五月  
うらたけしとて思はれしは鹿保の文もあはれしとて思はれしは

葛

葛の花もあはれしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

文徳三十四年  
うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

永享六年四月  
うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

物言

と物言はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

春の草言

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

春の言

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

春の言

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは

春の言

うらたけしとて思はれしは葛の花もあはれしとて思はれしは



若くは花をじり此種本よりの色も  
若くは花をじり此種本よりの色も  
若くは花をじり此種本よりの色も

若くは花をじり此種本よりの色も

河邊草

川風おうりてはきき一葉はらうりてはきき

唯きをわたりてはきき一葉はらうりてはきき

梅辺草

梅より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

常時毒

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

常時毒

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

常時毒

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

若菜

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

花より草をわたりてはきき一葉はらうりてはきき

日小井くく雲雲乃乃のよきり水くくく橋わわわん  
日の君乃ををの雲のたぐよくや幸たははしひひひひ  
云々々々ひ那く小出くもる乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
明在元分二水之龍九はふ  
出くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
岩乃雲之雲乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

未若菜

山風くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

聖若菜

やこくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
水乃乃若菜

千文明  
聖人乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

愚と若菜

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

海乃若菜

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

寄若菜後云

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

残雪

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



花を又かきくやとらんは海も春はうらてあはれまつか  
二月三十一日  
春はあさひの打針一岐のすまき氷ふくふ若く下る観  
まてともあつたうたはあや日影とよまのころん  
春はあさひの打針一岐のすまき氷ふくふ若く下る観  
あさひやまにありくはえはるあまの月のまきうらん

梅雪歌

うらりふ日影とよまのころんあまの月のまきうらん  
漢詩集

まよりとわの氷乃若月打針一岐の花はうらん  
二月詩集

まよりとわの氷乃若月打針一岐の花はうらん

氷不解

とられるをををあふあふをうらひとたそそはる池あ

氷始融

あやあもまありやうけうあのみ日影はる若風そく

氷消田記

あはれあまの氷乃若月打針一岐の花はうらん

梅

あはれあまの氷乃若月打針一岐の花はうらん  
二月三十一日  
花といふはあふくこと世中ふいにあふく白梅の若  
あはれあまの氷乃若月打針一岐の花はうらん





踏梅

雪の三日月次  
さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風  
ゆいてゆくさきとほほほく梅のまはるるあつたきくをり

踏梅

雪のまはるるさしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅風

さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風  
ゆいてゆくさきとほほほく梅のまはるるあつたきくをり

梅葉風

梅の花さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅感

梅のむらさきの風さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅葉長

梅のむらさきの風さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅後神

今ハさしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅書留神

さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅道名

さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

梅中梅

さしつらふことと花のまはるる梅のむらさきの風

野梅

あはしくあまのこのく梅巻くはそりそりに花をば  
春の野梅をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
野梅をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば

あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば

津中梅

里梅

あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば

あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば

戸内梅

あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば

新梅

あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば  
あまの梅の花をばあまの梅の花をばあまの梅の花をば



芝吹く春中よりかきかたむさ乃目殺かこいひはか  
梅あゆむ

じつとよゆふさふいどふ人またよむ花とをふのらん  
梅有佳色

嘆くいふ色白ひも花乃名あさうねわぬ言れとれ  
柳

くらみ流去まきくひのうねをそはく柳うらまふ  
つくりたあみりれうあつあつさくさく柳か  
文とつとまの物なるあさなり柳か花もさうやとれん  
ゆふさくわくとみもま柳のうねは系いりあひとれ

柳辨春

柳の系とくうらうらとるぬささの柳  
柳縁緑彩

中書  
くりおとつたはくさひわむの年ふのうらま乃柳

柳露

文書之八  
あつとくさく柳の枝よ咲花乃つ不き色それとにわあ白露  
白露乃玉乃流しくも依保始乃しりのけ系ハま柳は系  
枝しり色あつとる露とくさささなり柳の末に留む  
あさみり枝あむくま柳やうらうらハ露の上は露  
花のよふ柳あははと物露乃柳の系の風はさす花ハ

新露柳

しつとあわぬあ乃流のうらまふとくささ柳の系

柳風

とよ枝の朽木の柳のわらわらとひびく風は  
柳靡風

花とよとあそびなげきく吹風のゆきありけり  
池柳

春風の吹く池のあそびやあそびたふらぬ  
川邊柳

あざふらふ川とよとそよふ川にわらわらとひびく  
河柳

あそびとよとひびく柳との葉はささむら  
岸柳

岸柳

岸の葉ふらふ柳のあそびはあそびたふらぬ  
池柳

あそびとよとひびく柳との葉はささむら  
池柳

あそびとよとひびく柳との葉はささむら  
池柳

あそびとよとひびく柳との葉はささむら  
池柳

あそびとよとひびく柳との葉はささむら  
池柳

水色を白柳

おのり二月次

五田川より流れゆく錦一帯成るくくや若柳の陰  
柳三々勢力

若草

春を知らずの心も風もよめてかたき柳の糸  
野より色も草もはげしきとて山に生れぬ若の春のそ縁す  
節よりより花乃雪のうらみもく草根ふたわると春と春  
流るるもく草ふりよりいつの春もあはれぬ小春風を吹  
ぬけお初ハあ〜若を生れ垣根よ〜わさ〜るれりや  
〜〜〜りこ〜さ〜い草もはげしきとて山に生れぬの春

草薺

春のゆくも花の移るる心もよめてかたき柳の糸  
いつのふあ面の草も春の春とてさう〜あ〜れりや  
山に生れぬ若草

薺

春のゆくも花の移るる心もよめてかたき柳の糸  
薺の生るる心もよめてかたき柳の糸

野薺

春のゆくも花の移るる心もよめてかたき柳の糸  
野薺の生るる心もよめてかたき柳の糸

春草

春のゆくも花の移るる心もよめてかたき柳の糸  
春草の生るる心もよめてかたき柳の糸

儀去草

文龜三四月次  
儀去草のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

蕨

文龜三四月次  
去山のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

早蕨

山根と折りたりせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

野早蕨

つそむい草のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

長蕨

長蕨のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

樹陰蕨

かこむく草のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

暮采山と蕨

暮采山と蕨のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

かこむく草のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

樵路早蕨

千文明三三  
去山のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

春月

文龜元国六月次  
春月のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

文龜四二月月次  
春月のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

春月のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

春月のゆくせきせきしるもまじあつて儀乃あまの下車

雲の向あらしの月の光もまきこめし  
 つらりと行く程にうらむの母よあはれおふ月を  
 たりおわいさしやあはれおふ月を  
 月おわぬをけさの秋のやあるををいさすとて  
 春あはぬ夜乃長くうらむを月おふ月を  
 夕暮の光ふこめく花の色おふ月乃まやこの  
 けりりやむくも秋乃月をいさすあはれ  
 の教うらむに

春曉月

花の本をみたりおふ月をいさす海の色  
 残る秋乃月をいさすうらむのうらむ  
 おふ月をいさすうらむのうらむ

長月

春月曉靜

秋乃月をいさすうらむのうらむ  
 月をいさすうらむのうらむ

長月

春月

月をいさすうらむのうらむ  
 月をいさすうらむのうらむ

月をいさすうらむのうらむ  
 月をいさすうらむのうらむ

出栖長月

月をいさすうらむのうらむ



旅宿春月

じよふしきあめさうりあ秋のよそすのすね月のとる花は  
去月影

月かりしりもそよまては去乃先ハ花ふまをそく  
去月出

むろ世のまのこもさや東の月やう海なるはあよ  
ふとやうそこの神ふつまわく花の香もいふるは月

去曙

花よのこまといひし去のきいなるはくもゆかのかこ  
又やうじとらりじりふ花もさつさふくは去乃明かの  
ふとくさうじとあうはらさよふはつさよまの去れ明かの

さかひあつたつふらうこらばより世の去れああかのこを  
かり記目とそこのじもさつさふくはくもゆかのかの  
ふとじりんとあうはらさよふはつさよまの去れ明かの  
かふとまら那ふのあはらさよまなあはらさよまの  
かじまはかろたつたのあはらさよまのこらばより世の

都春曙

みりにあふ月と花ともあふそる都乃こあはらさよまの  
鳥とよとらりふそれの都ゆくまふいらそあはらさよまの

去曙

あふふあはらん物あけかのあはらさよまの去れ明かの曙  
春曙鳥

た今わうを思ひふらりておぼひかようんを思ふ

延喜二十二年月次 去勢 ことしのいぬ乃

さうに思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

去ぬ

花の事とつて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
おぼひとせも去らりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
思ふふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
花の之れ事おくりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
下も思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
夕月来とつて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

みらららふつ不ける花の事とつて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
去らりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
花の事とつて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

延喜二十二年月次 夜去ぬ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

延喜二十二年月次 去ぬ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ  
あつとむたあきとせふらりて思はれし乃思のあつとむたあきとせふらりハ

ころもくろくぬ

巻三十五月次

海てはくはくしの見はくち申乃らるもきぬ志やわくくうふ

春鷹

秋風ふくくはく一物成て津宿するははくふきぬかき

帰鷹

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

巻三十五月次

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

あきととふふくくくくあきとと花とのうて宿はくん

嶺ぬる

于文月十三  
志りしはまほしくわらじ極をゆき終らうとくふまくり金

旅宿ぬる

時わねえのゆきやまをくちるひらりりて後入枕やとさ

狂系

くちりゆきせふくりやゆき乃先ふりしゆえりつとゆお  
和正二月月次  
之くへく我力うおまうとゆかゆきとさぬ世の風

梅

和正十二月月次  
年とくくゆふ梅のくちるおらうとくゆきあそひかへゆ  
まへ今もゆふ梅のくちるゆきとゆきあそひかへゆ

梅柳并枝

まへ今もゆふ梅のくちるゆきとゆきあそひかへゆ

花

大同元年春  
まへ今もゆふ梅のくちるゆきとゆきあそひかへゆ

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和正二月月次  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき





多のきとがころひをむく指よりかくく白ふるれり文うか

山花未遍

ふぬる君のうらな花乃うめあきまきく指をまらふりかん

山花

花あまて世ふさく多のしちを思とを言らやうくをうらん

見花

あふ映るぬふらとくめんとく交なれ物と素ふみくわれ

しれぬのよふさきり乃花あつゆてやえんぬ人乃花

静見花

後撰心女大和三三のふ 世 寄れと待誰とこそわびむ身世の独りあ乃花のう言うか

みれうらふ指映るうさ色うらあをたはゆくと花そくあき

ふやとわくせきぬあ乃書きまきくあ花ふさふさくし

見花恋友

西行と因三日月次

花や志あひ世うらもくみくあおゆくのまよとこそふあう言

老後見花

むらくと花あそくうらあふとせあおらふあひこくゆりさ

見花忘能

又明より御軍家之命

杉木あもそくふとくくはるわあああ花あうくくそああ

花盛

らせてととくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

感花

花とそらあうらうらあうらあうらあうらあうらあうらあ

らるるいりくふふ中しりしりしり花のくせりしりしり  
後撰一冊裏花各一首内前所三共  
ゆしりしり風もすしりてきりしりしりしりしりしりしり  
わたりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

花と映月

花のまを月のみりしりしりしりしりしりしりしりしり

風静花芳

しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
おのれ三月次  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

花笛

り長くしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

散花

花のまを月のみりしりしりしりしりしりしりしりしり  
淡路今集三  
おのれ三月次  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

交花

若くしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

孤花

余波しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

未飽花

今もしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

花田名案

花のまを月のみりしりしりしりしりしりしりしりしり  
おのれ四月次  
花のまを月のみりしりしりしりしりしりしりしりしり



遠花

わづらひし花ふもまはぬ影のほろもちりり  
依花をり

暁花

花あ極くしらぬまよふ花のほろもちりり  
暁花  
後撰一葉集  
ふき花のほろもちりり月ととれぬほろもちりり  
暁明の月より花のほろもちりり

曙花

曙花  
淡秋吟集  
おろしき花のほろもちりり

朝花

朝花  
花のほろもちりり

夕花

夕花  
あはれも又くは花のほろもちりり

去々花

去々花  
花のほろもちりり

月前花

月前花  
花のほろもちりり

月お身花

月お身花  
花のほろもちりり

毎年の花

毎年の花  
花のほろもちりり

玉の結乃ふりくく多る色くけき六年おゆくぬ花中一あり

東田花

東田八景次  
あなこそあふくくふあふくしゆあふくくくくくくくくくく

あやうくもんえんのあやふあふあふあふあふあふあふあふあふ

田花

いろくせうくせうくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

西中花

續撰一林葉中云  
あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

西後花

又巻四三日月次  
あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花間鶯

巻三三日月次  
あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

松間鶯

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花更松

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

松間花

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花更心

玉王集一

十一

ふい今ふりし花乃さうりよきあふし

花

秋掃一尾身のむのひ細川右衛門三郎りてなかりける一護り  
あはくも花のいろ形も色吹しけよみ結さし肉乃うあありは

花と雪

と目そる海し花乃さうりみりまらそわ物清まねり

花

りりるも雪形ふ花乃さうり風よとのまらるる音乃さうり

花

一ひし花乃白いふあしてさむねまふのさせねのさねま  
後掃一掃子裏中云

地りしやる杉木乃花あまむいさあを教乃花とさうり花

花

十文明十三

お坂や風あけりりる電のあし園の戸はけぬまはさうり

岸花

お坂や風あけりりる電のあし園の戸はけぬまはさうり

池邊花

目みくも藤をみそ池あけ花乃さうりあふりあけり

枝ふりまきけり花乃さうりさむいさあやうりる池あ

花

又春三四月次  
枝よりさるれさるさうりあされまおしりる花とあふり

あふりまきけり花乃さうりさむいさあやうりる池あ

あふりまきけり花乃さうりさむいさあやうりる池あ

かきうらわらぬあつたはるの雪のたふゆわぬをい

野花

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

聖徳花

うらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

野の花

わくろく心解のうらやまの世ふたのたふるまのふり

母花留人

わくろく心解のうらやまの世ふたのたふるまのふり

湖花

わくろく心解のうらやまの世ふたのたふるまのふり

以明十三十八禁の月次花守記後方

白花

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

後花

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

禁中花

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

禁中花芳

花のうらやまの世ふたのたふるまのふりそ有まれ

牡丹花

久起元三十六内裏花見後  
うららかに花も色はく、まじりて春の心せふくみん  
節をいふらるるや、うづらひの心花の志の心花の志の心

古寺花

長風ふらぬの小舟ひも目ふくむつくりはらもそよりきぬ  
物影ふらぬともきも花の志ひひらりぬねねの心

山花

いつもきく物もあふも花の心はらるる心入あひまの心  
花のまぢりぬも雪とよりそかふぬ花の心

茶店花

後弟系あふも花の心をそとつくりぬ心

ありとる草花唐乃ぬや、色もねんくふ花の心

山家花

夕ぐれぬ花の心は、花の心はあふも花の心

雨前花

花の心は、花の心はあふも花の心

雨巾花

人ひらきぬ花の心は、花の心はあふも花の心

花結

ふかふかぬ花の心は、花の心はあふも花の心

花の心

年くつらぬ花の心は、花の心はあふも花の心

花乃をこりりと

大正七、西宮夏月、長原遊花  
いろの卯や花のそりりとこりりと  
なまびらけのまふおわら

花雲

文明二十二年、長原  
心あつくふちふちとらそ花うらりか  
ぬらぬらものこそを  
てはゆふに  
りのふらぬ世乃をぬのかあま  
たむふさねるものこそか  
やもこころをねてふか  
風花根ふともさひうらん

花似雲

あふよほそれとらうら  
や露の色花のそら  
たの面けおさ  
暎うしろ花の白し  
ともさうん  
いねあ  
露の白を  
夕雲半つ  
ぬれ花の月  
は入日  
はの  
を花の  
くも  
空の中を花

けあけの風ふり  
よるれの  
糸あ  
ゆらゆら  
の  
花の  
いろ  
うら  
ら

花雪

花よふふわと  
いちち  
とそ  
あ  
ま  
そ  
ら  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま

花波

浪乃あわ  
よ  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま

花露花

花の  
いろ  
うら  
ら  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま

花挿花

花の  
いろ  
うら  
ら  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま  
あ  
ま

花下意思

花やたゞ年柳の今うわの留家等らういふらんたるはあか

花下忌飯

わんねきくはなはる花の東老とくして我のうら

花下忌日

ふもを成くると花のう紀物とれあうなれまのなれが  
笑はそるれもくやし妻のなま法の言ふよりいひあ

花下振着

らうらうい遊海やれんふんをそを葉のうらうと恥ふまをて

花衣

月夜にわのわ物うらわの夜を花のなもわ花のあふ  
心とくはふそめゆらうらとまをてうらう人な法もあ

花枝

人やま成しうらういひあの花のそわ昔れりし成

花麻

ふり川りりゆふのなぬあのはわゆるせを改やうらひ

花綿

くめりひとくうらふ小車乃あさうらけあまをうん

花有運速

あちききゆくうらひふ花のう花小くまきひそりうと  
咲くくうらうふあまのうらひあまをう花を風そく

花慰老

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

花ま

あふよは花をそめるしとくさくさふゆふのほろほろをうか

花友

さねらうのうらとを井ふうそわれなれりあのみうなとあ

惜花

あともうらめぬらんれあうらうらあまもあまうらん  
天明三年八月廿八日禁裏中月次花序青芳  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

惜花不拂庭

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

對月惜花

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

花面彩

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

花形身

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

言風花友

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん

落花

あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん  
あまもあまうらんれあうらうらあまもあまうらん



ちるこくをきりて人のありのわい行なふ花をあらうくも  
千文の十二  
 とそいふてははるかにあはれむ世のこころと花ふみや  
 きくしよきを花をほむとすれらるる世はわらうのふ  
 りらるる花のあはれむ世はわらうのふ  
 りらるる花のあはれむ世はわらうのふ  
ちとちとちと  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを  
 りらるる花のあはれむ世はわらうのふ  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを

落花の書

落花の書

おふのともろんてわらう花のほくくはまふふいこの悔  
 みるりのあはれむ世はわらうのふ  
ちとちとちと  
 落花の書  
庭と落花  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを  
ちとちとちと  
 落花の書  
庭と落花  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを  
ちとちとちと  
 落花の書  
庭と落花  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを  
ちとちとちと  
 落花の書  
庭と落花  
 花よりのいよを花よりのいよを花よりのいよを

花埋書

雪三集一

廿九



花のまをて多と白ひをまをせよ咲てふくの花うらまをり  
侯修吟集三  
多のまをてあつぬまうあまればはうらまをぬまのまをり

社心十三四月次 桃

小少なを成花ふけあまをまをの十はうらまをぬまをり

桃花曝綿

りたふまをるけの綿を極まをりまをぬまをり

雑

なまをりまをぬまをりまをぬまをり

野如雑

うりまをりまをぬまをりまをぬまをり

聖雑

まをりまをぬまをりまをぬまをり

那も雑

なまをりまをぬまをりまをぬまをり

朝を雑

見お今わつれ目影とけまをぬまをり

嘆子雑

のまをりまをぬまをりまをぬまをり

聖極

まをりまをぬまをりまをぬまをり

聖極三年

聖人あまをりまをぬまをりまをぬまをり

春日連

たう里もたきふまはるはくはたき日あゆ  
三方様  
乃やうらさうひの春よむらひさうらひさうらひさうらひさ  
永平一法月次  
若うたをのつこいさうらひさうらひさうらひさうらひさ

西田苗代

つひさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ  
何苗代

まの田のさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ  
ひ里さうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ

田畑

つひさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ

松若

うら若めり白ひおきりあうさうらひさうらひさうらひさ

橋松若

庭うらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ

歌を

こまのさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ  
山吹のさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ  
さひまての波おきれんさうらひさうらひさうらひさ

歌を感

つうさうらひさうらひさうらひさうらひさうらひさ  
池歌を

山崎のてれをさるまゝの池のついでにたゞみ成りあへく  
河津を

夕暮のつらさしき川ありよきまきくたをささひのむ  
りれ川なるくのさる成り成のいそそくをさるあはれん

夕藤

松の葉のつらさしき川ありよきまきくたをささひのむ  
戸部藤

夜波よくのさるまゝの戸部藤よりたわひつらあへん  
江畔夜

夜あふのさるまゝの戸部藤よりたわひつらあへん  
江畔

何のえおしきうらさるあ波されわわつら風よさしきあうえ

社乃夜

かへてともかんてつらあひつらあ波よりたわひつらあへん

松夜

わをせしき松のうらさるあ波のたみ成り成りあへん  
天文三三  
松のうらさるあ波のたみ成り成りあへん  
去の海おしきあまのさるあ波のたみ成り成りあへん  
あつらつらあまのさるあ波のたみ成り成りあへん  
あつらつらあまのさるあ波のたみ成り成りあへん

松夜

松の葉のつらさしき川ありよきまきくたをささひのむ  
松の葉のつらさしき川ありよきまきくたをささひのむ

友の松花

文政七、六、三、九  
飛鳥をこぼしうらむる春をよしの松花をまじりて松花の葉を  
玉りつらつらふらふ友の松花をよしの松花の葉をまじり

友花遠去

去の葉をよしの松花をよしの松花をまじりて松花の葉を  
友花をよしの松花をよしの松花をまじりて松花の葉を  
友花をよしの松花をよしの松花をまじりて松花の葉を

情春以友

情春以友  
情春以友  
情春以友

春欲若

春欲若  
春欲若  
春欲若

若春

若春  
若春  
若春

若春賞

若春賞  
若春賞  
若春賞

若春賞

若春賞  
若春賞  
若春賞

若春賞



春のこころあやしく入日の光消へていづれか花の影をみよふ

三月夜歌

和歌十八三月廿日日月夜歌云

余波あふりてさくらにさくらをまじりて春の心よとほし

春 葛城

和歌十七十月次 柳の枝をさるるさるるまはれぬとすじ松のしづ

春 葛本山

とるさそはうれあふむきと花うら葛本山の中をさるる

永正十日月次 春の夕よりさくらをまじりて春の心よとほし

春 志安山越

ゆきとて越へそやうね志安山越ゆきみらもさるるあはれ花のまき

春 志安山浦

山越へてはるさるるあはれさるるあはれさるるあはれさるるあはれ

春天

和歌九七月中夜は春の心大館刑アすしりるやう

春のあはれをさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

春の代ハのさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

春天象

かたけうさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

春の心

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

春の心

みくらりさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる



春文

永正四月初次  
又巻三十四月次  
いづくかあけいふあけくさじふひめらばさるれらよととるを  
とをまじふあけの のあささうりさうりさうりさうりさうり

春書

あささうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
まはる

春歌

春中かきう  
花あまのうらも入まてはるまはせとひうりさうりまはる

春書懐

あやめは花よととれくさのあけ余ふととるさうりさうり

春尺歌

いあけはは乃とさうり花よりれ文ととるさうりさうりさうり

春神紙

まのふらうととるさうりあけ神紙のあけまはるさうりさうり  
あけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ  
あけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ

毎山有春

縁起吟一章子縁起  
ととるさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

毎家有春

心六十九  
あけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ

松有春文

又巻四十九  
いあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけあけ

松契多春

春松興齡  
君亦今のひ生乃松やうらひ松のよきまうさこはね乃松風

春松興齡

何処よもわが志は松のよきまうさこはね乃松風  
わが志は松のよきまうさこはね乃松風  
表ぬ乃松のよきまうさこはね乃松風  
何處よもわが志は松のよきまうさこはね乃松風  
わが志は松のよきまうさこはね乃松風  
表ぬ乃松のよきまうさこはね乃松風  
何處よもわが志は松のよきまうさこはね乃松風  
わが志は松のよきまうさこはね乃松風  
表ぬ乃松のよきまうさこはね乃松風

今もなほ事と花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風  
花のよきまうさこはね乃松風

入道門府竟定花とよきまうさこはね乃松風

破挿一

花のつゝも花とひとあり老多れなり仍舊れこれの下を  
君より庭花と云ふとふ入る内府亮定まう  
てきてとゆれいふまをうれ中とるまゝ  
あゝ老病まうひとるうと入る  
花をりりこふなれと一枝おくとじとひつ  
字終ひくつ所あ

あゝ

亮定

約るも打きん袖も花のいろはひりふりた分のこなりわる  
二月中旬書よりつる朝道へ

資直

後撰天文三十三六  
いりいともことねぬまぬひありと心いじ花の心をやあは

あゝとてわけこゝこふ揃ふ花まら仍乃思れ

あゝ

こゝの母ふしうひありとまら花をいそねまこれと

享祿二これ見ゆくと記下官あうと

へ終るるこゝとまらくと又れ自らまら

あゝ

亮定

年後撰一これ花の契もと傍きまうとえまうおまおひわら

あゝ

花をけやまうとこれら成さうとや成そじあまうあ

大入る内府花のゆきとりくとあ

これ毎よりうととゆる成りあ

堯宣

漢一  
うつと記あひけりや宿ねれをうて老るるまれば

西海一

やまのれおの 縁うとまをれを老くあやと望して色む  
ち船六やよひ二日乃事一やとれと力ふきて  
又此あしきまきり

堯宣

漢一  
志の々々はありうた記毎のうらあはらぬ花さう一か那  
年くれ名残の志るや座のたあう一色銀色さの老母と  
あうとやうれうとそとり一むいあもくよれとれの夕哉  
いと海細川右京北入道 及永 為宗れの家う

うれ花と見あやうりそとらう一まきこも  
此片のくよあれ可樂うた人のう一うくそ  
うとそとらうれうとそとらう一むいあもくよれとれの夕哉  
いと海細川右京北入道 及永 為宗れの家う

西海一

まぬれありまう人のまひとすは花ふ志の望ふはわうらん  
うつとらうあひうらあうとふ花の老母はまきり一色あ  
らうとれとあやあありとそとらうれうとそとらう一むいあもくよれと  
二月廿七日春日社よ備うて仰一おらめ  
の花はまきり一くかへ仰一うら  
あうとらう一まきり花のまはらうらあうとらう一むいあもくよれと

古八日宇治の平等院ありて  
とくわ乃花とて

暖より指成さしはこをば  
夕流くこ都よさうり  
れ指をぬくふんこま  
れゆ

所自うーつるに都の事  
けとさふぬまは花のゆ

異本 春家 松松糸り  
幾やゆらるる山とく  
はらん家の種をあら  
ゆねを

かのはらゆらるる  
さゆね 花よりふ  
ゆねの下の

あまうらり  
ゆねの下の

ゆねの下の

春色浮水  
あまうらり  
ゆねの下の

あまうらり  
ゆねの下の

あはれなるまはるるあはれなるまはるるあはれなるまはるる

雪玉集卷第二

夏

首夏

夏をわがらふ葉の末に花を程わりとこぞおれぬとそゆ  
今ゆく小菟をばつとと少く見とまはれ物とハ程やなつらむ

首夏後

夏をそとあわくあつと所をぬふとらふいづらとあつとそらる

夏衣

夏衣のせいへんす袷衣をたつとあつとまはるるあつとまはるる  
夏衣をさうやうに花柄をたつとあつとまはるるあつとまはるる

細夏衣

名病のわぬまのまぶしきうへりし物のはるこころ  
衣久

和四丁四月次  
馬のけりあもけらるるまはらるる花のよきまはらるる  
蘇花

結する卯月とまてはらるる花のけりける花はあはれ  
新樹

和四丁四月次  
花のよきまはらるるまはらるる花のよきまはらるる  
新樹朝風

和四丁四月次  
花のよきまはらるるまはらるる花のよきまはらるる  
風とけらるるまはらるる花のよきまはらるる

庭新樹

よふから花やのれりしつらまはらるる花のよきまはらるる

新樹露

まはらるる花のよきまはらるる花のよきまはらるる

卯花

よふ中とよふ中開きしつらまはらるる花のよきまはらるる

雛卯花

和四丁三月  
花のよきまはらるる花のよきまはらるる花のよきまはらるる

隣卯花

卯乃をぬきまはらるる花のよきまはらるる花のよきまはらるる

恒卯花

世中よみらわりとこいひのうらみかひのたよきこゝろあはれ

卯花隠路

後撰済大永三并廿六  
口つらへさなるあはれこそおれなほいせとこいひのまよふ

夢露

あゝおしひさしにせよかひんはうきかたふてふもろくろく

梅夢

もろくろくは流人のつらきなりゆくあはれいふは

郭公

和名十二月夜  
志川くねる夜のように思ひ深きほどあはれいふは  
きあはれそたかふた〜わきまにせよ〜わきまにせよ  
きあはれと相とあはれ〜わきまにせよ〜わきまにせよ

あはれいふは流人のつらきなりゆくあはれいふは

時高どのの月いづれにまわればも〜も〜も〜のわきまにせよ

郭公待来のつらきなりゆくあはれいふは

あはれいふは流人のつらきなりゆくあはれいふは

はなをねのつらきなりゆくあはれいふは

お月やこぼれる月の首のわきまにせよ

あはれいふは流人のつらきなりゆくあはれいふは

待郭公

こころなきうらみありあはれ村のわきまにせよ

ゆるしにく我がうらみこれあはれいふは

郭公いづれにわきまにせよあはれいふは



尋中郭云

夫しんらひあそやうきあさにてけれよとてあつた

待中郭云

永正四年月次  
下ももまらうひあまやうきあさにてけれよとてあつた

待中郭云

永正五年月次  
友ふしきう海一物成得今うらたきくもあつた

初郭云

うらたきくもあつた

始中郭云

我らあつた初言と行らうとてあつた

郭云何方

一志の極くあつた

夕時云

我があつた初言と行らうとてあつた

とてあつた

郭云唯云

わらうりたれあつた

月前郭云

をばこのあつた

郭云唯云

あつた

寝覚郭云

の福くより福とめりきけりあきと徳もわきまらるらん  
暁郭云

かこくも有る月とそよぬはよむしとてやまがたき  
暁月守郭云

有明の月やのきぬとそよぬはよむしとてやまがたき  
夜中郭云

たけしよわうひとてかきまきすたのわきしやふとて  
思郭云

又月かきすし此思のちとてかきまきすたのわきしやふとて  
後杭吟又記云思のちとてかきまきすたのわきしやふとて

わきしよわうひとてかきまきすたのわきしやふとて

湖郭云

湖名今もあきむ田舎の産とみりあきしやふとて

市郭云

こゝろもあきむ田舎の産とみりあきしやふとて

郭云

こゝろもあきむ田舎の産とみりあきしやふとて

郭云

こゝろもあきむ田舎の産とみりあきしやふとて

借郭云

こゝろもあきむ田舎の産とみりあきしやふとて

又月又日

あやふしき月夜に  
実葛蒲

ひらけとふくむらさき  
橋

後抗一  
立花の  
五橋

初橋  
層盧橋

あやふしき月夜に  
初橋

あやふしき月夜に  
五橋

あやふしき月夜に  
五橋

あやふしき月夜に  
五橋

あやふしき月夜に  
五橋

あやふしき月夜に  
五橋

五橋

標のしるしをいふるもまじりしむるをなむとて花を数ける

標

又春三月次  
そのうちをいふあらし花の上をいふとていふるは

誰みのあらし花はくもるもいふるはむのいふるを

早苗

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

うらむもねのいふるもいふるはむのいふるを

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あし早苗

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あし早苗

千文のしるし  
秋風くる葉のしるしをいふるはむのいふるを

あし早苗

うらむもねのいふるもいふるはむのいふるを

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

霖

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

あし早苗

あらしのたてしむるもいふるはむのいふるを

文治十三正月九日

すゝめをわくわく目もいそぐ目かゝるも我れ月夜は

三梅のふらふらと月をふらふらと日あはれり  
川あはれ

新あはれとほろ日較と山あはれもあはれり日あはれり  
山あはれもあはれり

あはれ目暗  
あはれ目あはれり

あはれ目あはれり  
あはれ目あはれり

水鶴

月あはれとわくわく目もいそぐ目かゝるも我れ月夜は

あはれ目あはれり  
あはれ目あはれり

あはれ目あはれり  
あはれ目あはれり

あはれ目あはれり  
あはれ目あはれり

鴨川

鴨川集

ゆゑに鶯あつたりたを好む松をさうりたの風の

鶯鶯河

せんとくしるのつむぎうしよのかりもわすれぬのうま  
たつたのうの上つせきよりぬきあひまひふあひまひふ

鶯鳥文

夕暮りさうりたあひまひまひまひまひまひまひまひ

夏月

明もあつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひ  
うたうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたうた  
中あつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひまひ  
あけつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひまひ

つとてきとあひまひまひまひまひまひまひまひまひ

樹陰夏月

木のしるのつむぎうしよのかりもわすれぬのうま  
たつたのうの上つせきよりぬきあひまひふあひまひふ

夏月透竹

あつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひまひ

名取夏月

夏の海八月あひまひまひまひまひまひまひまひまひ

浦夏月

あつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひまひ

水と夏月

あつたりたあひまひまひまひまひまひまひまひまひ

清くさびじとふららり海を舟をたぬれとせし

叢火

大徳六年月次

くわいふいじふるりれをりそ薄のやどのゆひあるこせ  
程もやま川やのぼきうととひのうらゝめふれを

遠村叢火

徳和四年月次

をれとけなるれなりと烟のうらゝめふれを

堂

うらゝめとあつむらも夜更の光ふらにゆとあけら  
年とくたあゝ光あつてくもをそをたてあつて

叢堂

うらゝめとあつむらも夜更の光ふらにゆとあけら

堂火遠堂

徳和四年月次

ゆれちりあひうらむむとれひのやまの  
うらゝめとあつむらも夜更の光ふらにゆとあけら

堂

徳和四年月次

ゆれちりあひうらむむとれひのやまの

西中一管

徳和四年月次

ゆれちりあひうらむむとれひのやまの

水

千文明十二

ゆれちりあひうらむむとれひのやまの

水下管

なぐちりれありともけりしひさふさふさ<sup>ついで</sup>とわもゆらぎあはれ  
花雪うららりけき花あふふとたけしともきあはれ

いさ

永正十二年乙未  
さうきふひまめとさうたのひまのりあうらひらん

里雪

後撰集三  
やりみれやうらりあふらきじうれりけりるるるる

雲火秋正

われ雪とゆらあはれのおうそ風とともきく雪か

杜蟬

永正九年六月日相倉貞景遊若人くわしりきふ  
あめめくらをこの世と祿あはれはのなけりれりるる

蟬

なぐちりれあはれともけりしひさふさふさ

瞿麦

和歌六六廿月次  
あさあけく物あはれとあはれとさうきふあはれのあはれ

瞿麦露

うたわぬたともけりしひさふさふさ

瞿麦常露

なぐちりれあはれともけりしひさふさふさ

瞿麦勝衆花

和歌六六廿月次  
さうきふとさうきふとさうきふとさうきふと

雜瞿麦





おのづからいふもよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

池道

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

夕立

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

野夕立

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

梅夕立

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

春樹夕立

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

納涼

つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり  
つらき心もよき事なりけり

かゝる色に紅けく夕紅も月とらふじう涼と  
春日松は赤白

夕紅と三日月の輝もいさういさう今くうくうあれたの風  
六月乃てる白の雪乃けくとしてじいじいくまると松乃あ

納涼風

秋九月廿四日  
あつあつあつてとて海を渡るさういさういさう風乃あ

夕納涼

十月廿三  
天の月乃くまゆくゆくまゆくまゆくまゆくまゆくまゆく

山納涼

いさういさういさういさういさういさういさういさういさう

水邊納涼

照日乃やかりけきとじいじいじいじいじいじいじいじい

冬三月廿六日

たつめやあつあつと涼し河風中のみよふ葉のあはさうとく

松下納涼

おのぼりうのりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

樹陰納涼

涼しとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

林蔭納涼

松とて林蔭とむすむす山川のほとりあはれたるあはれたるあは  
ははははははははははははははははははははははははははははは

船納涼

涼しとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
とととととととととととととととととととととととととととと

松風五反

後撰天永三六月次  
雪のたれやうんころせうふかやむ<sup>み</sup>のな松色のうそ

泉

ゆめいと水依びとふりてなれ日射さうり<sup>す</sup>魚ん

暁五反

うそすく一年とあうふあきの葉はうと松風のうんとすん

暁五反

元永六月次  
うそやうひうりうり九月日とあふれ風を吹んとみん

友反

みそけうとふの枝に氷凍りてとて松をたるとなるとらり  
後撰天永三六月次  
うそやうひうりうり九月日とあふれ風を吹んとみん

後撰天永三六月次  
ゆめいと水依びとふりてなれ日射さうり<sup>す</sup>魚ん

元永六月次  
うそやうひうりうり九月日とあふれ風を吹んとみん

松風五反

ゆめいと水依びとふりてなれ日射さうり<sup>す</sup>魚ん

松風五反

ゆめいと水依びとふりてなれ日射さうり<sup>す</sup>魚ん

六月反

ゆめいと水依びとふりてなれ日射さうり<sup>す</sup>魚ん

元永六月次  
うそやうひうりうり九月日とあふれ風を吹んとみん

友





後藤一丈の... 夏田南苑  
ひらき玉れ 爽うつくしむめふと行おどくくろり影あす

夏地儀

夏とてへうそひとあはれあはれきくものらそりけうあ

夏動物

あけふまりうそりうたあひの程とくおほひひかりあはれ

夏遊懐

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

夏草々

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

夏木黄鵠

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

深山新樹

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

夏草滋

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

園中麻

あけふりぬゑのきれひりあもふりあはれあはれあはれ

雪玉集卷之三

秋

立秋

うららひさ秋くはあもみとてきり神のつら秋の暮れは  
きせとくはあもみとてきり神のつら秋の暮れは

秋来るあき

和四十七月次  
桐の葉も来秋のつら秋の暮れは

困る秋来

うららひさ秋くはあもみとてきり神のつら秋の暮れは

新秋風

あきあきと秋をせり秋のつら秋の暮れは

雪玉集卷之三





永享七年八月 初秋萩

杉木鳴多やうはは萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

初秋萩

永享七年八月 萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

岡初秋

この地をさるこいあ地乃る風流神ぬるさ川の水地

河初秋

浪とともお秋さるるさ井あのを地あくるさるさるさ

早秋

松のさるあつとれさるさるさるさるさるさるさるさるさる

永享七年八月 萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

早秋月

来さるにさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

夕月萩乃の萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

田早秋

又書すに年抄軍書云各 萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

乃路早秋

永享七年八月 萩の葉乃とれかあ萩の地のゆり後

遠の早秋

萩乃をさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

残暑

さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

秋の彩よさけの秋なる風あつたま飛つらふとささくちとあ

早涼

和名七月次 夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

七夕

七夕の成をせはさう記是まにわく記初秋の昔

和名七月次 夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

織女鏡

どりのいと鏡りさくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

七夕月

この夕の月あつたは秋の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

漢露月明

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

七夕早涼

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

夕の彩りしと記さくささの秋はほこ秋あつたのゆよを

七夕風

夜半の月夜 夜半の月夜 夜半の月夜

七夕の夜

夜半の月夜 夜半の月夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

七夕の夜

三十三集

五

七夕管絃

し百ふあいのれも移るは糸竹と吹つらうていあまは川後

七夕縁

ちよとあうしむむ織女のおかたはあまのりよのあ

七夕扇

らうらふゆもひらうてわ七夕の扇もいあうらん

七夕衣

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

七夕枕

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

のらね七夕

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

七夕山

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

七夕野

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

七夕河

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

海色七夕

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

あうらもそあふ袴らうらあうてあまのあまのあま

七夕別

のち夜よりよのちの夜にささるるあはれは川を

七夕後朝

ふらふらと川を渡るもついでにわが身を合はさ

ついでにわが身を合はさ

とて川を渡るもついでにわが身を合はさ

七夕即事

ふらふらと川を渡るもついでにわが身を合はさ

牛女悦来

のち夜よりよのちの夜にささるるあはれは川を

二星遠逢未叙別緒倍々之恨

星の光をよみてはるるあはれは川を

今宵織女渡りぬ

星の光をよみてはるるあはれは川を

織女懐久

星の光をよみてはるるあはれは川を

七夕祝

星の光をよみてはるるあはれは川を

寄織女懐

星の光をよみてはるるあはれは川を

萩

夕風吹く風はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

秋風

秋風吹く風はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

朝秋

朝秋吹く風はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

夕秋

夕秋吹く風はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

揚子秋

揚子秋吹く風はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

秋聲の夜

秋聲の夜はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

秋を枕

秋を枕はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

秋音を枕

秋音を枕はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

離秋

離秋はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

白秋

白秋はくもかきしむれ秋の心  
と清くはくもかきしむれ秋の心

暮秋

千々千々 此のさきもいふはゆきをわらふとてそら秋の風

秋の風をいふ

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋の風

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋

秋の風をいふ秋の風をいふ

秋



秋とくしん我そ志光格ふま森原すれたどしん書あところん

とす

とゆるあわ癒としそあきあぬむさしうあはんとさうて

女前巻

お記そりくさひふれしとら女前巻あまきくあ癒むりあさ

主あしやみんもあまきあぬむさしうあはんとさうて

めらぬ巻

あひくしんふふふあぬむさしうあはんとさうて

巻

巻いふるあひぬのさくあまきあぬむさしうあはんとさうて

巻

あまきあぬむさしうあはんとさうて

風前巻

あまきあぬむさしうあはんとさうて

夕巻

あまきあぬむさしうあはんとさうて

初巻

あまきあぬむさしうあはんとさうて

古初巻

たふし秋を思ひてうら秋の初めなふ袖あひるらん  
閑庭落

一ひらふてと女とさうやうらるる家とては家の落る那  
閑庭落

巻三十四月次  
あはれくさうた世のあはれあふる看ねるふふをてそえ  
巻四十四月次  
あはれくさうた世のあはれあふる看ねるふふをてそえ

巻三十四月次  
松ぞか思ふのたれおるひさ波よせくふあき風りく  
京落

于文明十三  
あはれくさうた世のあはれあふる看ねるふふをてそえ  
竹萱龍風

巻三十四月次  
誰ゆへやとと志のたれあはれ風とさうあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
蘭薰枕

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
檜花

巻三十四月次  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
檜花

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
草花

巻三十四月次  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
草花

草花早

つぎとやあなとの海をまわす一志のゆゑのさくら花

折草花

又前九七の合  
白牡丹のうつくしさをよほしき花をわづらひて

秋花

うつくしきその世のほそと秋の形をうたふ

風花

小秋のさくら花の風をよめる

菊

又前九七の合  
なほめ侘け花のさくら花をよめる

名園花草

あまの香も花もよめる

秋花

又前九七の合  
あまの香も花もよめる

花

又前九七の合  
あまの香も花もよめる

あまの香も花もよめる

花

あまの香も花もよめる

花

あまの香も花もよめる

あまの香も花もよめる

叢霧

隆祿吟六天形三千一亦又  
又若の七はくしてわがふせのひのたよの霧とどたまうらん

庭霧

千文明十三  
葉よりこもるらぬ庭をわたしの霧をわくむ乃こもりてやうん

原霧

秋さむしき小篠のそらに風あふやとり別てを霧れとらん  
るのそら二十元居ん  
霧とめくゆらゆらゆられ霧もそと霧もそと日ゆく

なご霧

とむし人の跡もとどろくうらむるた若のれ霧とこもらん

かはれ霧

和心九九月次  
わがをもちら小霧あもあはれ我神よとれもくらん霧あはれ

虫

花や夏ゆめやもぬもりあふもこもりのまわとらん  
形と昔の月次  
あふもこもりのまわとらん霧のたれくも風い吹らん

秋虫

やりのわが心まじりてとらんそら宿はらりねる松虫のこも

菊虫

又のそらと十八葉裏の月次  
こりくはれ又こもる霧もあふもこもりのまわとらん

遠鳥虫

又卷二十七月次  
こりくはれ又こもる霧もあふもこもりのまわとらん

曉虫

又卷八十四月次  
秋風ささる葉の露のこもりのまわとらん

栢道殿吟抄  
たの社のつひとらりと松虫の有る月おちうじしん

クハ虫

家々しむまうたのあはれをうらみぬむすむすを  
はりの縁くらと松を松のしるふふら松のうら  
まうらくとうらむあそと松風をいひひらけの夕つ松

秋虫

松よりあつとあつとまきらうととあつとつた松のあひち  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

夏虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

春の虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

秋の虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

夏虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

春の虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

秋の虫

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

夏虫

柳のやうなもあふあふのうらやまのあはれを看んば成程とむ

離中六

かたみくき花の虫はあはれを花の如くもせらるらふ

虫あり伝

なく虫の枯るすあはれを思ひまふらふてさうな後ありふ

虫怨

恨じあふとらうらひの色枯るるさなる病の心と

早蛩鳴後歌

かのをれ初めさ風がきりくさもさゆらと成さるもあはれ

のの松の 我らもささゆら 柳の如く成さるもあはれ

鴈

朝まゝ記あひねむむくなく我ら目影ふやとらるる初

風をうた柳のさ清葉うらあはれとらひく初めささる

うらなわらひのまらうらり金小うら柳のあま月とらふま

初宿

契ふもささるらうらそは初めささるらうら初めささる

暁宿

さあはれあはれ成まらうら初めささるらうら初めささる

夕初宿

夕の影をわらうらうら初めささるらうら初めささる

若くは梅香

雪玉集三  
若くは梅香  
雪玉集三  
若くは梅香

物名換月

物名換月  
物名換月

田上石

田上石  
田上石

華島石

華島石  
華島石

後石

後石  
後石

石似樽あり

石似樽あり  
石似樽あり

遠石

遠石  
遠石

下官能列へくさりけり

下官能列へくさりけり

つらつら

つらつら

磨

磨  
磨

秋風吹くはくすくすつらめりてはるるん  
ゆふのうらみれといふは神のまはるるのたふさくも

秋麻

この秋はゆふの麻のたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

きくく人の心はあはれいそはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん

秋麻

秋の神のまはるるのたふさくもつらめりてはるるん



秋風小麻乃言のまきまきとれおのれまきまき人ともあ

思麻

海老乃思への事田今よりやわふりそく麻の毒と恋ん

枕麻

ふ来ひくおるもされりと麻の毒ふらふむまて秋風そく

こころの毒あへりたれおれりてらとひらぬ縁とやゆらん

田家麻

むしうさふ縁えあそとさあかんおね田の月ふらとくは電

たくとくむさあも今ふれおるも田ささぬは縁とれ電

麻あつお友

なるぬ染へ物忘れく麻の毒あそふあへりあれたのこらと

麻あつ懐興

秋のこころ麻うりりれりたをばまきまきうりりる麻うりりけ

麻あつ響

山所への神もやわらと麻おのぞれり麻のぼりれり

遠ゆ麻

梅麻乃山つら記書とたこふ有明の月麻の林乃たまら

麻あつ恋

昔もそ八月とらりあやせくむまこふう梅麻のこ

麻あつあつと

物もひわれ麻うらあすうらとあふりあはあおあねん

小麻あつ

名跡のまじりぬ毎てをくれば秋の具くることの妙をさへか持人

以勢

千之節  
風とわくまへにのあとのあけなまじりきまをさうく時をさ

以多勢

うらぬくまをなむのあかへん入るにたあ一まあかぬけ

鴨

又巻二十二月次  
あひ志れ移えさくとも秋さくまのあまの志れたのそ移れ

澤畔鴨

秋あさうれと澤田のうらうらまじりもあけ鴨のそぬり

澤邊鴨

はあれ極くうらまあふあけうたうらまあけ鴨のを移れ

田鴨

又巻三六月次  
さりのあさうらあ紫の月をさくま移れまへん移れぬり

秋田

りかうらまよりそあすの藤のまをさくま移れまへん移れぬり  
夕日影移れ山のまをさくま移れまへん移れぬり

秋田風

あさうらまよりそあすの藤のまをさくま移れまへん移れぬり

秋夕

あさうらまよりそあすの藤のまをさくま移れまへん移れぬり  
又明十日後あ  
あさうらまよりそあすの藤のまをさくま移れまへん移れぬり

去どふら此の姫さうくうん佐保のうらあつたの夕雲

秋夕情

西の七日月次

つらつら

秋夕情

秋夕情

秋夕情

秋夕傷心

ふらふらあつたひつうたもたつたあつた秋夕情

水心秋夕

ひれをたれやとひつうたもたつたあつた秋夕情

海縁秋夕

ゆきあつたひつうたもたつたあつた秋夕情

霧

山姫のあつたひつうたもたつたあつた秋夕情

夕雲

秋の夕雲あつたひつうたもたつたあつた秋夕情

園雲

園の夕雲あつたひつうたもたつたあつた秋夕情

渡雲

渡の夕雲あつたひつうたもたつたあつた秋夕情

古渡秋夕

古渡の夕雲あつたひつうたもたつたあつた秋夕情

夕雲あつたひつうたもたつたあつた秋夕情

勢間船

淡橋の集三  
山崎の船よりくち梅く舟のしらけりし舟の糸とるこむ

河勢未結

勢間九月月次  
河勢未結乃常とさしし秋きり舟と木やうたな活の川と  
めねと色とねとやうとあまぬにじとやねと船のいさ

勢中一極電

秋へをぬきとりとたふたりと船々勢をたふたふりま

秋文勢

勢間十月月次  
秋勢やうとくくしてとふ人よとぬうとねとるる

勢箇山寺

きりぬとそとととつらわまふ船船船乃く絲の青とらりて

きりぬとそとと

勢間十一月月次  
わらわらぬ葉乃心と勢にあふたの船とらららん

勢途

あひよあひくんとつらひりともたらぬとまぬ月月の船

深夜勢途

勢くくあつたれとこも舟地とこも勢りかた月月の船

稲妻

勢間十二月月次  
稲妻の稲妻あれあをまともとまぬらん  
そのしあをあらぬとらんとあまのひつりのうらねとら  
あつとらんと秋介のめんとと月やとる勢のよとらとあまを

田家秋集

勢間十二月月次

田家秋集

畧のく乃折ふと手むと野の裏田面の花をさう人もさ

月

秋の月中ふありそふとりのこつむとふとて幾も夜をひ  
り来す此の月乃るや人よほそとねぬいふあふたる  
うこしあふあふさういふ山風は月をさあつとられ川あ  
そそもた月をさふりうとふとくくくくくくくくくくく  
里のな乃秋はくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
物もとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
めりさそつてねとむ乃とくくくくくくくくくくくくくく

秋月

大くこひひくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
出乃と念花乃まきも秋もわだほくくくくくくくくくく

待月

葉の露葉の事れくせとくくくくくくくくくくくくくく  
吹はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
蓄くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
人くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

待水待月

まふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
月やまふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

十五夜

月御出

秋のふふらりおのりさるる御出 秋の御出

平家御月

平家御月 平家御月

晴御月

晴御月 晴御月

停牛月

停牛月 停牛月

深敷月

深敷月 深敷月

平家御後朝

平家御後朝 平家御後朝

川のふふらりおのりさるる御出

不知御月

不知御月 不知御月

立待月

立待月 立待月

外御月

外御月 外御月

有明月

有明月 有明月

有明月 有明月

有明月 有明月

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

晩秋

和暦十九月次 秋のふれゆく秋のあつたさうなうらなひのあつたさうな

夜見月

和暦十九月次 夜のふれゆく秋のあつたさうなうらなひのあつたさうな

十三夜 十三夜 十三夜 十三夜 十三夜 十三夜

十三夜 十三夜 十三夜 十三夜 十三夜 十三夜

十三夜

今日 今日 今日 今日 今日 今日 今日 今日

十三夜

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

見月

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

見月陽光

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

對月

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

對月

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

對月

物もいふことのあつたさうなうらなひのあつたさうな

多しし月影のかりとてりぬる月影あつておとつるは  
桂の目もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
くちりあつた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月

月影風

葉の繁ふが乃月影をうく夕なり月影をわかれぬか  
月影のさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
かたててあつた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月

舞回月

志のてしきかたふ舞をすむ月の影のさかればと糸竹も  
夕きりあつた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月

舞中月

月影芳

ふりの舞一じつる月の影のさかればと糸竹もかたててあつた月  
ゆらゆらひらりとてあつた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月

月影也

月影もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
月影もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて

月影也

もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
世の夜もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
陰つた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて  
舞とつた月影もさかればと糸竹もかたててあつた月影あつて

月影也



千一折のふる雪はよの敷のふかきへは流る雪をむく

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく  
世中ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく  
うめいらのふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく  
結よのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月入蓋

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月見月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月暁月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

九月

ふのたのけりふる雪よの敷のふかきへは流る雪をむく

秋十三日  
わさきや月おとすまひころる人へのみせのしほ

昔月

昔ぞらるるりるる月やいれあゝ昔はてしなくあはれ  
千女の十三  
しるしりいれわく昔をてめ月の子ひる月を昔はるるる

秋月

うらぬ秋の日の橋へも月あつらうさるるれも  
深く  
備あゝぬ秋のりれれはのち月の子のねとこも

思月

月よふたあゝ思はるるりに池あゝ思ふ思のあはれ

思月

あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

冥月

乃のよ秋つひ月ひききききききききききききき  
あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

昔月

あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ  
昔年四月次  
池ふりもいれあゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

昔月

あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ  
あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ  
あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

昔月

あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ  
あゝ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

三三三

三三三



池上月

池上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

江上月

江上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

江上月

江上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

江上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

湖上月

湖上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

湖上月

湖上月の光をうけて水も清く花も香る月夜を我ら

汀よるをうけて波をうけて七月やそれの光をうけて  
月あまきしれ流るる月夜を我ら  
秋風乃伊吹の光をうけて七月やそれの光をうけて

海上月

あさき月の光をうけて波をうけて七月やそれの光をうけて  
山りてれ海を流るる月夜を我ら

海上月

あさき月の光をうけて波をうけて七月やそれの光をうけて  
山りてれ海を流るる月夜を我ら

浦上月

あさき月の光をうけて波をうけて七月やそれの光をうけて  
山りてれ海を流るる月夜を我ら

しるしをいひしけわらうこれ秋の月長ねふくは露の粒をひき  
月影をいふある物うら風よりやうをてとあつあつの昔は  
すこころる月の名をいふ風よに秋うちわらうあつあつ  
ふくとをいふふくあつあつをいふ月影をとりてふかあつあ  
つとあつあつとふくあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

残月

千本十三  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

残月

月そすむ烟清りしや海乃そ城まことの秋をあらまて  
清月

秋の秋  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

白月

あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

初月

あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

花月

あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

清月

あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ  
あつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつとあつあつ

禁中月

うれとあここの秘をよむ秋風よつらる秋なき九重のつと  
若雲の如きとよほきて色やこのこゆるまは月鏡なる如

秋双月

船中六月

秋風を秋をむくくくく秋をきれはあひの秋とよく月影  
神く秋のあふらるる秋の秋をふくそわきとよく  
手入の十三  
秋の秋をくくくくく秋の秋をくくくくく秋の秋をくくくくく  
つらわきとよく秋の秋をくくくくく秋の秋をくくくくく

古寺月

人をもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
船中八月次  
人をもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
船中七月次  
人をもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

秋双月

秋風や秋のあきと秋の月けふうらる人かこころをよむ  
うらるくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
さきあつたあきと秋の秋をくくくくくくくくくくくくくくく

水双月

秋の秋よりの秋をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

田家月

もりのあつと秋の秋をくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
秋の秋をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

山中月

秋の秋のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

閑夜月

今午  
さひいづらふあつた心へあましとせらりりの世さうら月く  
軍中月

さひそとひさきさきうらぬあまをゆてあつた雲の月那  
秋風よまわし雲のあつたを月ふくくくくくくくく

隣月

今午  
とひじんとうらあやあひさう月夜うらふやとの中りさ

庭上月

秋あくふ木のまきひの秋風のまきく庭の月ふくく

秋葉月

秋葉の八月  
秋の八月のうらうのまきふきのあまのまきまきまき

月夜草花

小萩うらうゆえさうら萩うらう萩うらう萩うらう萩うらう

草花月

風とさひ萩のあまのまきうらうまきうらうまきうらう

月夜萩

まきまきうらあまうらう萩の月とまきまき萩のうらまき

月夜萩

白萩乃をまき萩のあまうらうまきあま月夜まきうらう  
月いすまうらうまきまきうらうまきうらうまきうらう

月下萩

あまうらうまきまきうらうまきあまのまきうらうまき

雪玉集三

五二





あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの  
月文のすてふちんも昔もひさかたあちねのあめさそ夜よるもの  
影文のすてふちんも昔もひさかたあちねのあめさそ夜よるもの  
さあつこの宿の宿もひさかたあちねのあめさそ夜よるもの

月おす宿

三首廣あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの  
れつりともあちねのあちねのあちねのあちねのあちねのあちねの

月お虫

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの  
すれりともあちねのあちねのあちねのあちねのあちねのあちねの

月お麻

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの

月お右

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの

月お寝

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの

月お衣

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの

月照衣

あめさそ夜よるものあめさそ夜よるものあめさそ夜よるもの

月お扇

白斗ハ秋の扇のそれあり〜

月似り

こころわあ〜

月似心

波のとれ月や難波の〜

月糸糸

さうに物と替り〜

月糸鏡

び〜

梅より月

浪り〜

漁父梅月

心な〜

梅月

一帯〜

わ〜

よ〜

残月掛峯

宿乃〜

残月越巖

物〜

月悲舊人

みくろのあつしを昔のころよとすまへ袖の月おうそむ

對月待あ

月ふくむらわぬ花もよとの花のうらみとくまうらん

寄月鏡列

ゆくもろつろく人の名残を月ふれれ枯つる花

張寄月

枕替ふ夢紫く月乃やうて我を夢系ぬかたの月あ

秋の野に花と月との夢まうらむと花と月との油の露

寄月搖泊

いふてあつれ月乃らのあつらわうらうらうらあり

寄月眺望

いありくむじくとぬまじ月おうちせくは沖乃つら

寄月速儀

山川の湯子湯あうらくはせおあなるれ月はあらん

月能速儀

月やあれうらまふと花乃葉は露りて花乃世はあらん

寄月尺波

おしふらあすうら月とてなれし佛乃光とそあ

寄月玄常

月さあをたつとあや出く入らうらうらあをれ世は

寄月神祇

あをまのさけうらうら花あは世は乃月は海人うら



夕よあふくをよたそら秋の月夜ふくつらひりのとうき  
十と秋夜月 はきあふり

度ふらじまはれくすあうらふあふあきす月をえあわね  
ね雲如佳月

風ふす人ようたろきやとれつ月ふゆよとねひううん  
秋月自澄江

切あわり入江のあふんともわうら月を交すしん  
月露松檜香

松のきりむとれりそあうえふよは月の下は枝  
對月悲回入

くうり月ふあふと思ふらんあつゆとれ世の面を

曉涵残月抄

けそとれくゆりて元のうら申ふえおふぬれあつ月を

月夢ノ遠情

むらさきの月夜  
けとわうあそは月乃あふんうらうああはぬらう

持衣

うらゆもこいそへせとれあはるふはれたあの家ありき  
くさひ乃あふうらとれさきひまをさうられ乃衣持  
あはらう後事う落ハれもさう月あく神のうらもさ  
の衣懐けくうららのひれうが乃川を巻くむらじ  
後撰 天取三郎東春月川はあ原者のすふ  
けく徳をうためあつ 揮乃うら月を記た衣るあ

持衣宅

八月廿三日

持衣言風

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

月下持衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

月下持衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

持衣不眠

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

曉持衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

持衣到曉

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

月下持衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

持衣催衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

月下持衣

かぶさしけしうけをそそぐ衣をくくぬきむの持衣あきん

持衣不眠

持衣不眠

遠江橋衣

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

海色橋衣

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

野介

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

朝野介

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

朝野介

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

葛風

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

菊有新花

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

白葉

おろそね花より記月おしじしそを記花とひふたづ  
のち橋衣

菊

文政三九月廿

九月九日

後撰二首

夕菊

秋の菊うつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

菊花薫枕

菊のうつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

初下菊

うてまろ初下菊花より記すはふさふさりなれ

閑庭菊

りみり菊色うつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

菊更落

かせりうつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

谷菊

昔風よ菊色うつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

河菊

川のこけりうつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ

池菊

池のこけりうつろひうつろ夕菊花より記すはふさふさりなれ



天のくまのりたる海のよきいとてき花ふそん  
くみ花花

みちのくまのりたる海のよきいとてき花ふそん

藤の葉

淡梅七 藤の葉をとりて作る葉はかきくれつる

板庭葉

そのくまのりたる海のよきいとてき花ふそん

葉最競芳

手傷 白ひそそのりたる海のよきいとてき花ふそん

葉花薰油

大九十九九中 花のよきいとてき花ふそん

昨日對葉

仙人のよきいとてき花ふそん

葉割鈴

八つとせ乃花とよきいとてき花ふそん

葉さ多林

くまのりたる海のよきいとてき花ふそん

花のよきいとてき花ふそん

逐年葉韻

形三九九七 花のよきいとてき花ふそん

葉香春不如

秋のよきいとてき花ふそん

園深兼交采

と日ゆく小春のうらりと花そのこころをこころや白く白く  
兼花映霜

じよひわくわくこの初霜を白く兼花のうらやみのまふあめて  
秋の兼とと初霜のまき初霜のうらやみの花とあはは

百舌鳥

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは  
あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

葛懸松

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは  
あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

紅葉

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは  
あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

本集四十四次

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

あまのこころをこころと初霜のうらやみの花とあはは

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

秋の夜半の月夜  
お葉文

お葉文

又々三  
考証又大形三ノ人  
山の波あはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか  
こいこいのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

お栗透松

木の葉のしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

初詣お栗

千々四十三  
久保のあはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

お栗誰家

あはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

お栗博女

淡坂三  
下のしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

お栗似錦

又々三九ノ月次

よさの娘のふしとてまじれしよあそすか

紅葉水餅

お栗九月次  
あはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

お栗深

夕時ぬしのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

五葉海風

うさぎのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

惜秋

お栗七月次  
あはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

秋笛

お栗九月次  
あはれのしらねのつゆはるごとしかなんぞあそすか

苦秋

久雨九月盡冬  
わづらひし秋はうらたれも我この世もいづかあはれ  
とゆゑのこゝろ世中もさへなれとありおし秋のうら  
つらかりやうら秋のつらさこゝろ神をさしとらさ

苦秋晚月

あつたをさかのつらさこれの秋月はらあきの秋をさう

苦秋露

晴しよハ露とさうらさし秋の露のふらり神をさし

苦秋霜

霜はさうらりさうらさし秋の霜のふらり神をさし

苦秋雪

雪はさうらりさうらさし秋の雪のふらり神をさし

心ゆくも秋をさうらりたはくは秋のうらたれ

苦秋残葉

あつたをさうらりさうらさし秋の残葉のふらり

苦秋紅葉

あつたをさうらりさうらさし秋の紅葉のふらり

独宿苦秋

ひとりかや我油ひらり時面らりりりりりりりりりり

九月盡

九月盡  
あつたをさうらりさうらさし秋の九月盡のふらり  
あつたをさうらりさうらさし秋の九月盡のふらり  
あつたをさうらりさうらさし秋の九月盡のふらり  
あつたをさうらりさうらさし秋の九月盡のふらり

秋風

あつちくくうふきふきあひじまうとせふた夕暮れ元  
民の葉いつたをゆたつたをこひつた風を吹くそあま

秋書

あさねの影は秋葉の海にまじりてあまのこころを

秋霜

つくねさめし紙へくさくあれたるのあまをそとにせをゆら

梅雨

村雨のしじらとあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋実

とじつとくろりあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋あ

らりらるる秋のしじらとあまのこころとあまのこころ

秋花

あまのこころとあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋鳥

鳴つた秋のしじらとあまのこころとあまのこころ

秋書

あまのこころとあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋色

あまのこころとあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋聲

あまのこころとあまのこころとあまのこころとあまのこころ

秋の月夜  
ふひくくわしそと海邊秋のふ樹のふふありと誰ういそ

秋夜

文の年中  
しそものそふひくねよ月うわあふれさく秋はう

秋里

あは風乃しそ海邊秋のふ樹のふふありと誰ういそ

秋田家

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋山家

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

山家深秋

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋楨

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋神祇

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋旅

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋夜

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋祝

秋のふからさくそふれよのらさくそふれよのら

秋雜

ちのへんころうけをかへりてはみかたの  
秋地獄

禁中云云

秋のちりふりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

修祓

あはれ又さすけのまゝのりてふりてふりてふりてふりてふりて

宮城野

文治三十四月次

秋のちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

水差思

承安三十四月次

林のちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

伊約心

あさおのちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

佐良之素里

承安三十四月次

うた秋のちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

明名浦

又承三十四月次

秋のちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

漫天秋水白

承安三十四月次

ふりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

都鶏鳴を初長

承安三十四月次

秋のちりてふりてふりてふりてふりてふりてふりて

秋のちりて

あはれ又さすけのまゝのりてふりてふりてふりてふりてふりて



晴く見目しつらつらとすまゝに雲の面おもむきたるは月か  
 らしきあまのつゆのしほのしほの月の光をそ抑せれ  
 る共の縁みうらわらむもこよは月かおもむく月ののしほ  
 こしつらつらとすまゝに雲の面おもむきたるは月か  
 らしきあまのつゆのしほのしほの月の光をそ抑せれ  
 る共の縁みうらわらむもこよは月かおもむく月ののしほ  
 こしつらつらとすまゝに雲の面おもむきたるは月か  
 らしきあまのつゆのしほのしほの月の光をそ抑せれ  
 る共の縁みうらわらむもこよは月かおもむく月ののしほ

異本

七夕言志 夏のうらふより秋の下の

天の川よりさらけりやとくしたぬあまのつゆのしほ

夜萩 世のうらむもこよは月ののしほ

風谷の縁みうらわらむもこよは月かおもむく月ののしほ

雲 花やあまのつゆのしほのしほの月の光をそ抑せれ

如きうらむもこよは月かおもむく月ののしほ

松雲 とうらむもこよは月かおもむく月ののしほ

わらわらみうらわらむもこよは月かおもむく月ののしほ

松麻 かなぬよのつゆのしほのしほの月の光をそ抑せれ

啼麻や心もいぬ書きたるは秋の下の

秋夕 春のうらむもこよは月かおもむく月ののしほ

秋夕

春夕



文の九十一七二少字は是六字あり  
誰守もてありけし今とみるを川といひし月の枝の雪書

川勢 山にりぬきうらぬ下

雨きやらそとふた雲よきたるにのわさののちとあん

月似後 中りとあきもやそまきの下

枝の月あるに雲ふとしけり花のうきとまきうらん

十五未だ約 夜まじし重なるのさの下

けのきふすしとまきの枝乃月なりねと約のあふん

秋蝶 遠籠花 とうらうふ花のさうりとの下

かへゆるや雲あまうさうさあじきむいおれおれさう

あさかくとさうさうさう下

あはのあさうさうさうさうさうさうさうさうさう

